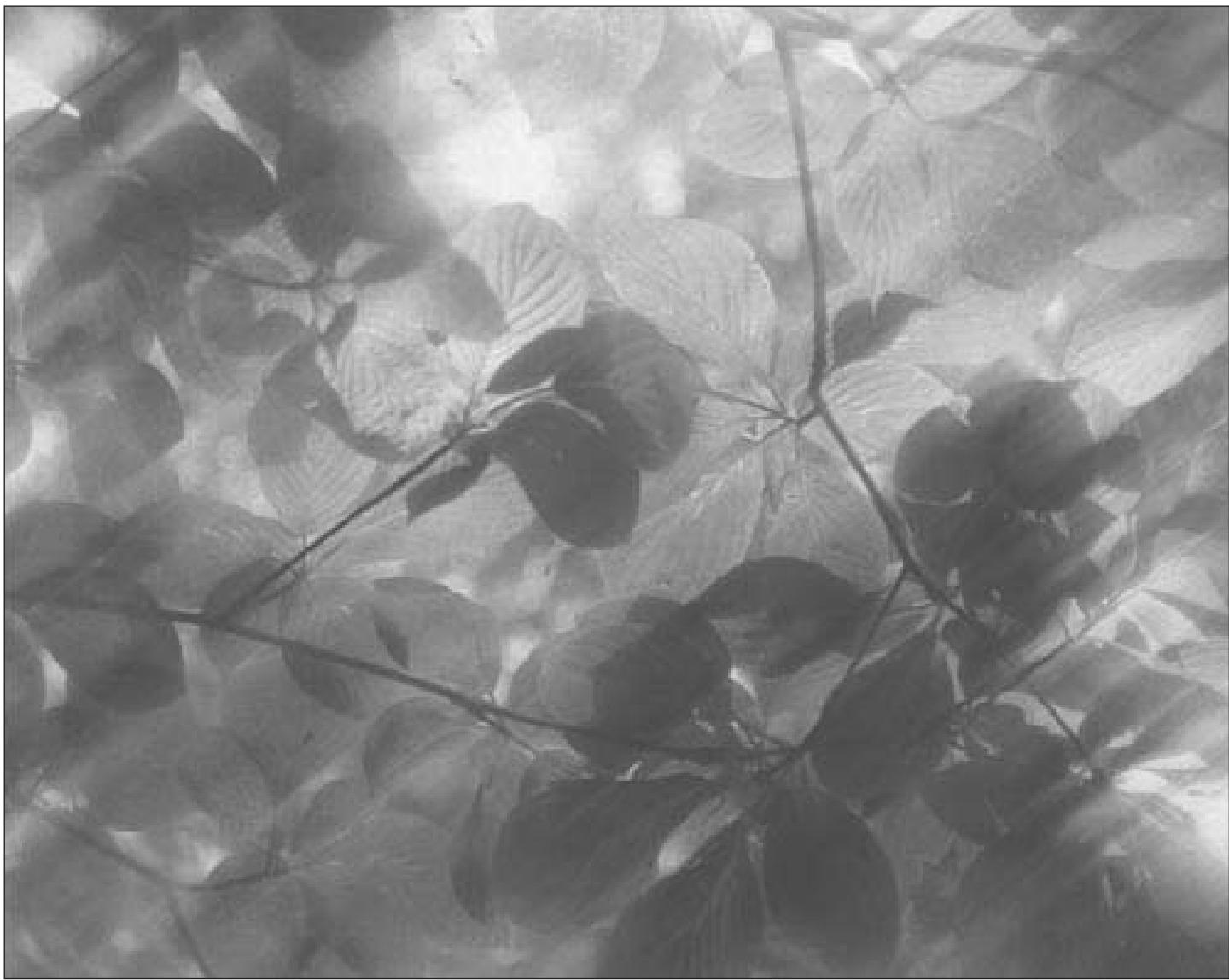


トリムファン 取扱説明書

90センチトリムファン
品番 DP-34811

110センチトリムファン
品番 DP-34812



工事説明書別添付

このたびは、トリムファンをお買い上げいただき、まことに
ありがとうございます。

- ・取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ・ご使用前に「安全上のご注意」(2,3ページ)を必ずお読みください。
- ・お読みになったあとは、大切に保管し、必要なときにお読みください。

もくじ

安全上のご注意	2
各部のなまえ	4
お使いになるまえに	5
運転のしかた	6
お手入れのしかた	8
乾電池の交換	8
故障かな!?	9
商品についてのご相談・お問い合わせ	10
長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示について	11
仕様	裏表紙

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は、絵表示の一例です。)



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



警告

■絶対に分解したり、修理・改造をしない



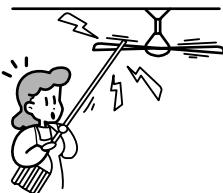
感電・発火したり、落下や異常動作してけがなどの原因になります。
分解禁止

- 修理は販売店または電気工事店にご相談ください。

■運転中は羽根に触れない



禁止



落下や破損してけがなどの原因になります。

■水をかけたり、ぬらさない



水ぬれ禁止



ショートして火災・感電の原因になります。

■異常な振動が発生した場合は、使うのをやめる



取り付けがゆるみ、落下して、けがの原因になります。

- 修理は販売店または電気工事店の点検を受けてください。

■本体にぶらさがらない



禁止



落下してけがの原因になります。

■お手入れの際は、必ずブレーカーを切る



不意に作動してけがをしたり、感電の原因になります。

⚠ 注意

■取り付け・配線工事は販売店または電気工事店に依頼する



誤った工事は、漏電して、感電・火災の原因になります。

■高温(40°C以上)、多湿(スチームの発生する場所など)になるところでは使わない

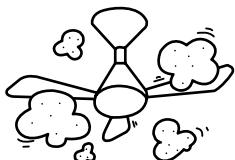


水場使用
禁止



漏電して、火災・感電の原因になります。

■油、ホコリの多いところでは使わない

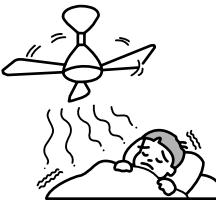


引火・爆発やショートして、火災・感電の原因になります。

■風を長時間、体にあてない



禁止



健康を害することがあります。

■殺虫剤をかけたり、周囲に薬品などを置かない



禁止

引火して、火災の原因になります。

■万一、羽根が壊れたときは、全部取り替える



振動して落下し、けがの原因になります。

・修理は販売店または電気工事店にご相談ください。

■お手入れのときは、安定した台などを用意して行う

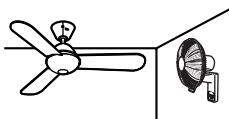


転倒して、けがをする原因になります。

■直接、風をあてない



禁止



落下してけがの原因になります。

お願ひ

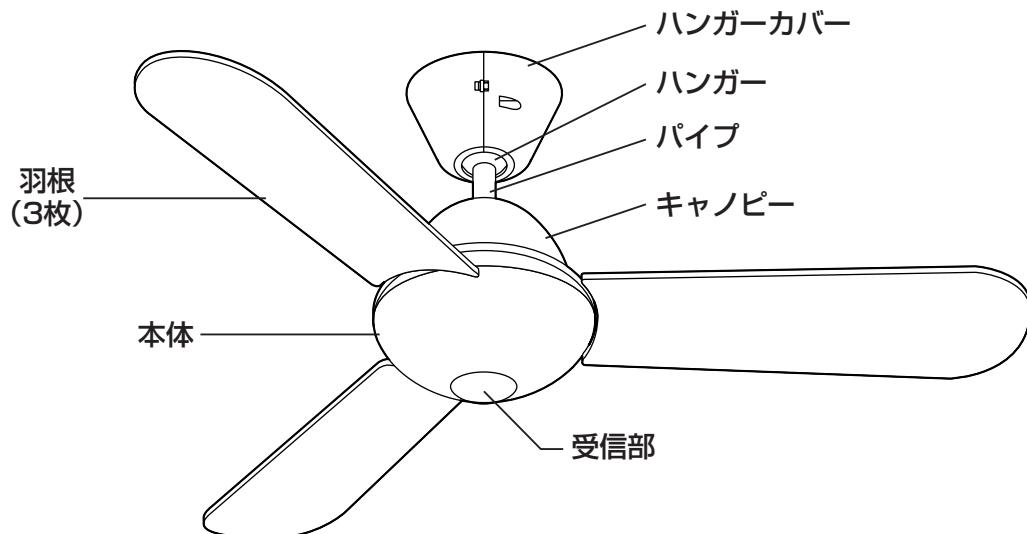
- リモコンに液状のものをかけない、リモコンを落とさない、踏まないでください。
(故障の原因になります)
- 調光器を使用しないでください。
(故障や異常音の原因になります)

お知らせ

- トリムファンは、羽根が回転することにより、横揺れ(2~3mm)が起きる場合がありますが、故障ではありません。

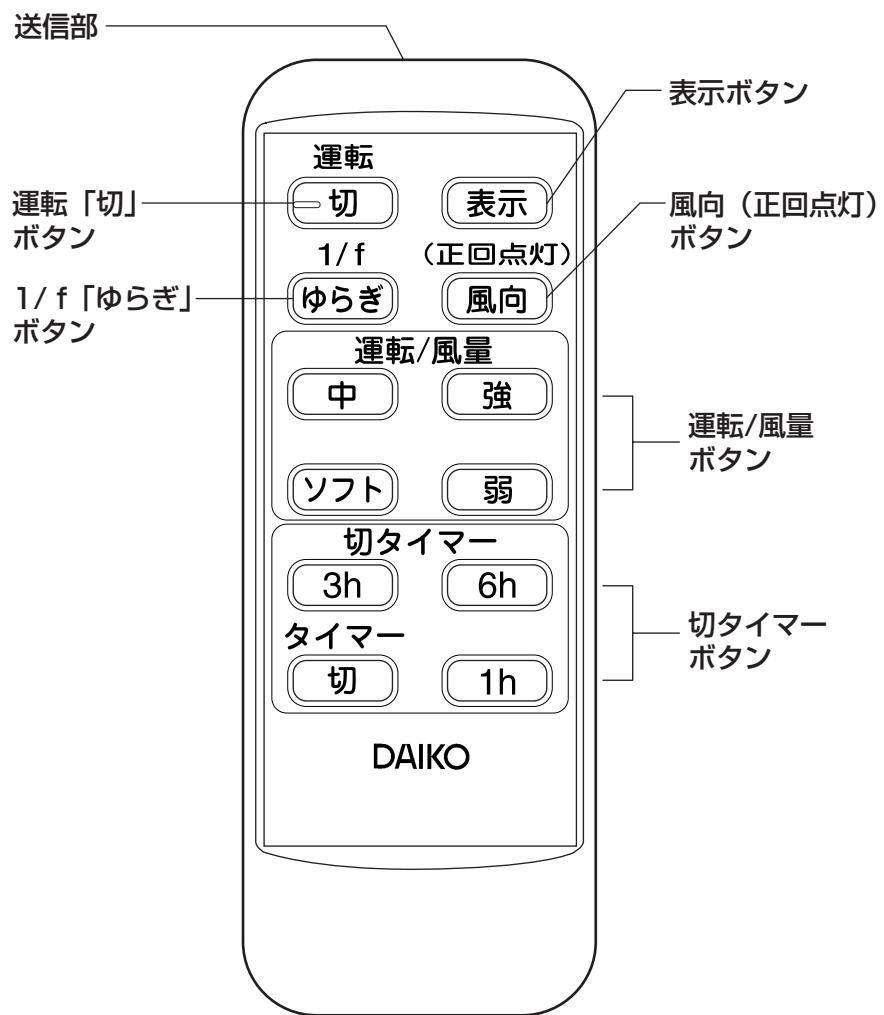
各部のなまえ

本体



リモコン

●運転のしかたは6ページです。



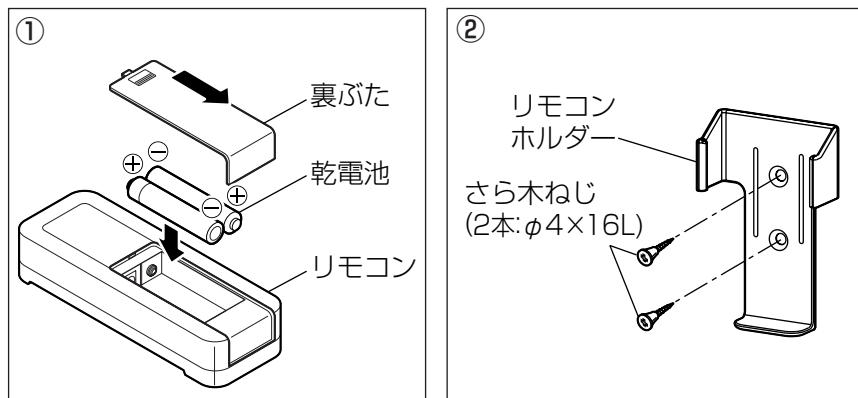
お使いになるまえに

1 リモコンの準備をする (すでに取り付けられている場合は必要ありません)

①リモコンに乾電池を入れる

- 裏ぶたを開いて、 $+$ $-$ を間違えないように入れてください。
- 必ず新しい乾電池をお使いください。

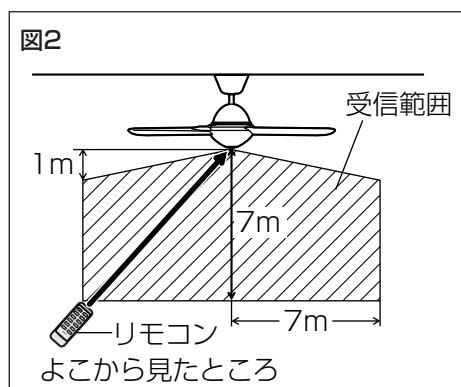
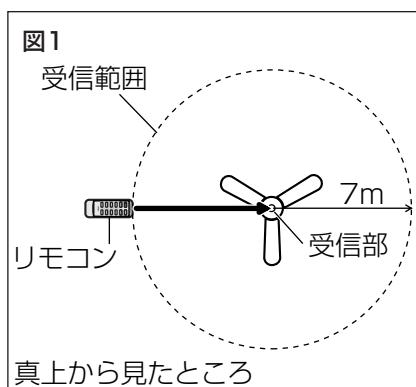
②リモコンホルダーを取り付ける



2 リモコンの受信範囲

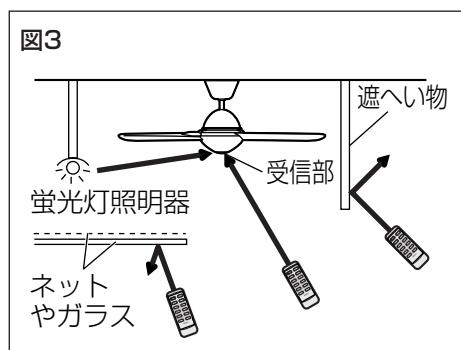
■リモコンは受信部に向けて操作します。

■本体下端の受信部は、図1、2のような範囲で受信します。



■受信部はリモコン信号（赤外線）を直接受信しますので、信号が遮断されたり、または蛍光灯照明器などによって、本体が受信でない場合があります。

- 受信部の近くにガラスや壁の遮へい物があり、送信の影になるところ
- ネットやガラスなど、光を減衰、または反射するものがあるところ
- 受信部に蛍光灯照明器が直接当たっているところ

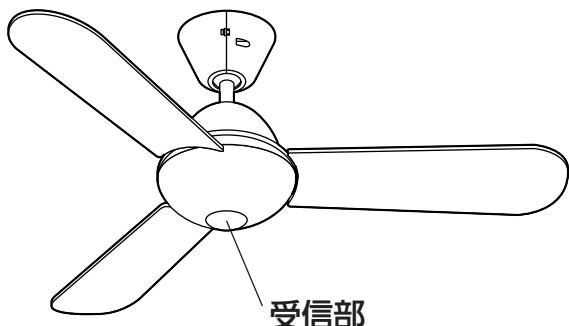


お願い

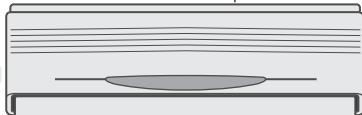
- 万一、本体が受信しない場合は、一度ブレーカーを「切」にし、羽根の回転を妨げるものがないか確認し、再度ブレーカーを「入」にしてからリモコン操作を行ってください。
それでも受信しないときは、すぐにブレーカーを「切」にして、お買い上げの販売店または電気工事店に連絡してください。天井取付部や本体内部に異常がある恐れがあります。

運転のしかた

本体

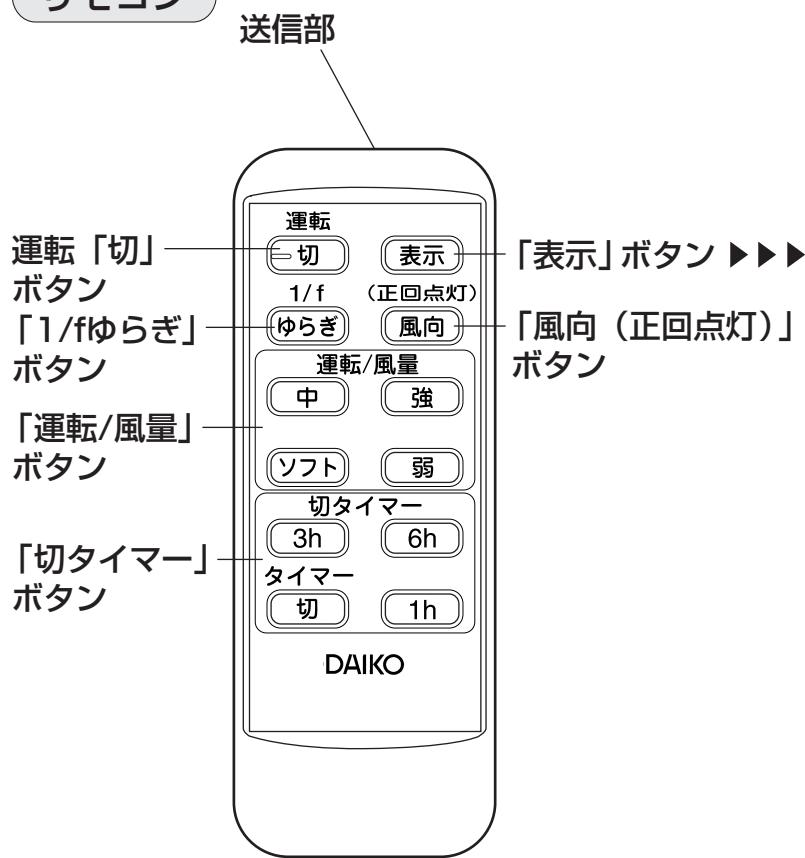


エアコン



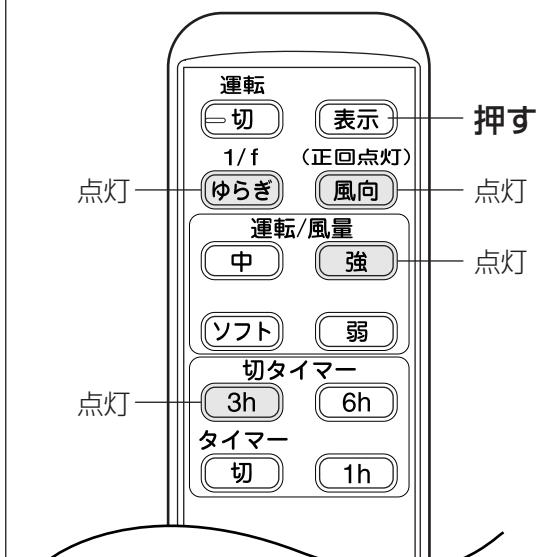
●冷房や暖房の効果を高めるため、エアコンなどとの併用をおすすめします。

リモコン



運転中に表示ボタンを押すと
運転中のモード(ボタン)が点灯します
(約5秒間)

- 下図は運転モードが「強」、
1/fゆらぎが「入」、
風向きが「正回転」、
切タイマーが「3h」のとき



お願い

●リモコン操作について

- ・お使いになるときは、必ずリモコンをリモコンホルダーからはずし、本体の受信部に向けて操作してください。(リモコンホルダーは保管用ですので、リモコンを差し込んだ状態でボタンを押しても、本体は動作しないことがあります)
- ・本体が受信すれば「ピッ」音が鳴ります。本体が受信しているか確認したいときは、「表示」ボタンを押して、現在の運転モードを確認してください。

お知らせ

- ボタンを押すと、押したボタンが約5秒間点灯します。(表示ボタンのみ点灯しません)
- ボタンを押すたびに本体から「ピッ」音が鳴ります。(運転「切」ボタンのみ「ピーッ」音です)
- 「風向」ボタンを押したとき、切換音(カチッ)と、うなり音がしますが異常ではありません。
- 回転開始時、反動で本体が少し動いたり、音がしたりすることがあります(異常ではありません)。
- リモコンで運転「切」のときの消費電力は約1Wです。

運 転
したいとき

風 量
を変えたいとき



**「運転/風量」ボタン
から、
お好みのボタン
を押す**

- 「運転/風量」のいずれかのボタンを押してからでないと、他のボタン操作はできません。

現在の運転
を確認したいとき



**「表示」ボタン
を押す**

- 現在、運転中のボタンが点灯します。
(ボタンは5秒間点灯)

1/fゆらぎ
にしたいとき



**「1/f ゆらぎ」ボタン
を押す**

- 1/fゆらぎは風量にきめ細かな強弱の変化をつけ、より自然に近い、こちよい風を送ります。
- ふたたび押すと「取消」。

タイマー
を使いたいとき



**「切 タイマー」ボタン
から、
お好みのボタンを
押す**

- 設定した時間がたつと、運転が停止します。
- 「タイマー 切」で設定タイマーが解除されます。

風 向
を変えたいとき



**「風向」ボタン
を押す**

- ボタンが点灯…正回転
⇒夏場など、直接風を当て、涼風感を与えます。
- ボタンが消灯…逆回転
⇒冬場など、部屋全体にゆっくりとした風を送り、部屋の空気をかくはんします。

- 羽根の回転方向を切り替えます。
- 正回転…風を下向きに送ります。
- 逆回転…風を上向きに送ります。

運転を 切
にしたいとき



**運転「切」ボタン
を押す**

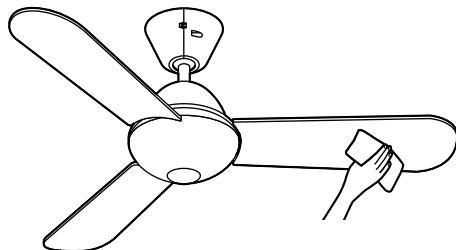
お手入れのしかた

- ① リモコンを運転「切」にする。
- ② ブレーカーを「切」にする。
- ③ 安定した台などを用意する。

本体、リモコンのお手入れ (1ヵ月に1回程度)

ぬるま湯か、薄めた台所用中性洗剤を浸した柔らかい布を、かたくしぼって汚れをふき取り、からぶきをする。

- 羽根に強い力を加えたりして、羽根を変形させないでください。
(本体の横揺れ、振動の原因になります)
- 右図のようなものなどは使わないでください。
(変形、変色の原因になります)
- 化学ぞうきんを使うときは、その注意書きに従ってください。



乾電池の交換

(乾電池の寿命は約1年です/使用状況によって変わります)

■交換時期のめやす

- リモコンの「運転/風量ボタン(ソフト、弱、中、強)」のいずれかを押してもボタンが点灯しなくなったときなど。



リモコンの乾電池を破損するようなことはしない

(\oplus \ominus を間違えない、交換は新しい同種のものを使う、充電しない、ショートさせない、分解・加熱・火への投入はしない、充電式電池(Ni-Cd)は使わない、乾電池を長期間入れたままにしない)

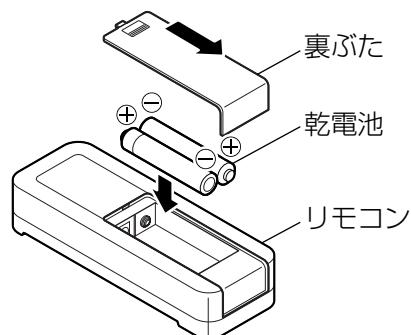


液もれや破損の原因になります。

禁止

■交換のしかた

- 裏ぶたを開いて、 \oplus \ominus を間違えないように入れてください。



故障かな!?

ちょっとお調べください。

調べてみれば、それはとりこし苦労かも。あわてて修理を依頼するまえに、一度確かめてみてください。

こんなとき

ちょっとお調べください／処置

参考
ページ

運転しない

リモコンで作動しない

受信しない

本体の揺れが大きい

振動している

- リモコンの電池切れではありませんか。
→リモコンの「運転/風量ボタン(ソフト、弱、中、強)」のいずれかを押してボタンが点灯することを確認し、点灯しないときは、新しい乾電池と交換する。
- 衣類や家具などで受信部をかくしていませんか。
- リモコン乾電池の \oplus/\ominus が逆になっていませんか。

8
—
8

- 受信部の近くにガラスや壁の遮へい物があり、送信の影になっていますか。
- ネットやガラスなど、光を減衰、または反射するものがありますか。
- 受信部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていますか。

- ①ブレーカーを「切」にする
②羽根の回転を妨げるものがないか確認する
③再度ブレーカーを「入」にする
④リモコン操作を行う

5

それでも直らないときは、
すぐにブレーカーを「切」にして、
お買い上げの販売店または電気工事店に修理を依頼してください。天井取付部や本体内部に異常がある恐れがあります。

- 羽根が破損していませんか。
①ブレーカーを「切」にする
②羽根破損していないか確認し、破損している場合は、お買い上げの販売店に依頼し羽根を全部取り替えてください。

3

それでも直らないときは、
お買い上げの販売店または電気工事店に工事説明書の取付後の点検・確認を依頼してください。天井取付部や本体内部に異常がある恐れがあります。

商品についてのご相談・お問合せ

商品のお問い合わせ、修理、アフターサービスのご相談は、器具本体に貼付している器具銘板で品番をご確認のうえ、お買い上げいただきました販売店、工事店、もしくは下記の相談窓口までご連絡ください。

相 談 窓 口	商品についてのご相談・お問い合わせ
CSセンター	TEL(0570)003-937 (ナビダイアル)

※受付時間 9:00～17:00 日曜・祝祭日は受付しておりません。

本社 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋3-2-7 高麗橋ビル6F
TEL(06)6222-6240 (代表)

※電話番号は変更になることがありますので、予めご了承ください。(平成21年1月現在)

MEMO

長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示について

(本体への表示内容)

天井扇

■経年劣化により危害の発生が高まるおそれがあることを注意喚起するために電気用品安全法で義務付けられた以下の内容の表示を本体に行っています。

【製造年】本体に西暦4桁で表示してあります。



【設計上の標準使用期間】15年

設計上の標準使用期間を超えてお使いいただいた場合は、経年劣化による発火・けがなどの事故に至るおそれがあります。

(設計上の標準使用期間とは)

- 運転時間や温湿度など、標準的な使用条件に基づく経年劣化に対して、製造した年から安全上支障なく使用することができる標準的な期間です。
- 設計上の標準使用期間は、無償保証期間とは異なります。また偶発的な故障を保証するものではありません。

■標準的な使用条件 日本電機工業会自主基準HD-116-3による

大項目	中項目	小項目	備考
環境条件	電圧	単相100V又は 単相200V	機器の定格電圧による
	周波数	50Hz/60Hz	
	温度	30°C	JIS C9601参照
	湿度	65%	
	設置条件	標準設置	工事説明書・取扱説明書による
負荷条件		定格負荷（風速）	取扱説明書による
想定時間等	扇風機 (含む壁掛け扇、天井旋回扇)	1日あたりの使用時間	8 (h/日)
		1日使用回数	5 (回/日)
		1年間の使用日数	110 (日/年)
		スイッチ操作回数	550 (回/年)
		首振運転の割合	100 (%)
	天井扇	1日あたりの使用時間	10 (h/日)
		1日使用回数	5 (回/日)
		1年間の使用日数	180 (日/年)
		スイッチ操作回数	900 (回/年)
		首振運転の割合	対象外

●「経年劣化とは」

長期間にわたる使用や放置にともない生じる劣化をいいます。

※上記の「長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示」は、電気用品安全法の改正に基づき、2009年4月以降生産の製品に記載しています。

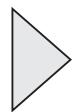
仕様

●消費電力、風速、風量は「1/fゆらぎ：切」「風量：強」のときの標準値です。

品番	電圧(V)	回転	周波数(Hz)	消費電力(W)	回転数(r/min)	風速(m/min)	風量(m ³ /min)	本体質量*(kg)
DP-34811	100	正回転	50	20	245	143	99	5.2
			60	27	267	150	105	
	100	逆回転	50	20	293	—	—	
			60	29	320	—	—	
DP-34812	100	正回転	50	45	243	173	164	5.5
			60	60	260	173	183	
	100	逆回転	50	45	255	—	—	
			60	60	279	—	—	

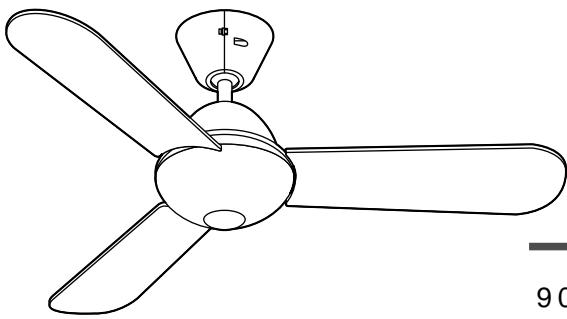
●リモコンで運転「切」のときの消費電力は約1Wです。

※本体質量は、取付金具とリモコンを除いた質量です。

愛情点検	長年ご使用のトリムファンの点検を!		
	このような症状はありませんか？ <ul style="list-style-type: none">●スイッチを入れても回らないときがある●回転が遅い、または回転が不規則●こげくさい臭いがする●本体の揺れが大きい、または音がする		このような症状のときは、故障や事故防止のため、スイッチを切り、ブレーカーを切り、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です。)

お買い上げ日	年 月 日	品 番	DP-34811 DP-34812
販売店名		電話()	—
お客様 ご相談窓口		電話()	—



トリムファン 工事説明書

90センチトリムファン
品番 DP-34811 110センチトリムファン
品番 DP-34812

製品を安全に設置し
お使いいただくために、
この工事説明書をよく
お読みのうえ、工事手順
に従って工事を進めて
ください。

お客様への取り扱い説明

取扱説明書に基づいて製品の取り扱いを説明
してください。
工事説明書は、取扱説明書と一緒にお客様に
お渡しください。

上手に使って上手に節電

もくじ

ページ

別販パイプをお使いになる場合は、付属品(5ページ)、
取り付けかた(13、14ページ)を参照してください。

安全上のご注意	2
各部のなまえと付属品	4
取り付けるまえに	6
1.リモコンの受信範囲を確認する	6
2.本体の取り付け場所を決める	7
3.取付面の強度を確認し、 弱い場所は補強する	8
4.引掛シーリングが付いていない場合は、 付属の引掛けシーリングボディを取り付ける ...	8
結線図	9
本体を取り付ける	9
1.天井に取付金具を取り付ける	9
2.本体の下(受信部)に緩衝材を敷く	12
3.パイプにワイヤーと モーターリード線を通す	13
4.本体にパイプを取り付ける	14
5.本体に羽根を取り付ける	15
6.キャノピーを取り付ける	15
7.本体にハンガーを取り付ける	16
8.本体をつるす	17
9.ハンガーカバーを取り付ける	18
10.保護シートをはずす	18
取り付け後の点検	19
仕様	19
外形寸法	裏表紙

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

表示内容を無視して、誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は、絵表示の一例です。)



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



警告

絶対に改造しない



感電・発火したり、
落下して、けが
などの原因になります。
分解禁止

交流100V以外では
使わない



過熱して、火災
や感電の原因に
なります。
禁止

施工は説明書に従い、
確実に行う



不備な施工は、
火災・感電・落
下によるけがの
原因になります。

・施工は電気工事士の資格
者が行ってください。

施工は必ず電源を
切ってから行う



不意に作動してけ
がをしたり、感電
の原因になります。

配線ケーブルを破損す
るようなことはしない

傷つけたり、加工したり、
熱器具に近づけたり、
無理に曲げたり、ねじっ
たり、引っ張ったり、
重いものを載せたり、
束ねたりしない



ガスレンジなど炎の近
く、引火性のガスのあ
る場所に取り付けない



炎の立ち消え、
引火、爆発やシ
ョートして、火
災・感電の原因
になります。

・修理は販売店または電気
工事店の点検を受けてく
ださい。



痛んだまま使用
すると、感電・
ショート・火災
の原因に
なります。
禁止

⚠ 注意

取り付け・配線工事は販売店または電気工事店に依頼する。(設置工事は電気工事法・電気設備技術基準に従つて確実に行う)



誤った工事は、漏電して、感電・火災の原因になります。

温室・浴室など高温(40以上)、多湿(スチームの発生する場所など)になる場所には取り付けない



漏電して、火災・感電の原因になります。

水場使用禁止

薬品のある場所・酸・アルカリを使う場所には取り付けない



引火して、火災の原因になります。

禁止

油、ホコリの多い場所には取り付けない



引火・爆発やショートして、火災・感電の原因になります。

禁止

振動や衝撃の大きい場所に取り付けない



落下してけがの原因になります。

禁止

万一、羽根が壊れたときは、全部取り替える



落下してけがの原因になります

禁止

十分強度のあるところに確実に取り付ける



落下してけがの原因になります

付属の安全ワイヤーは必ず取り付ける



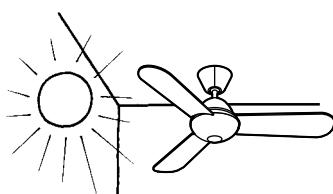
落下してけがの原因になります

お願い

調光器(ライトコントロール)などに接続しないでください。
(故障や異常音の原因になります)

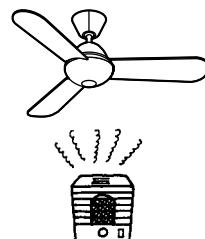
次の場所には取り付けないでください。

・直射日光の当たる場所



樹脂部分の変色や変質の原因になります。

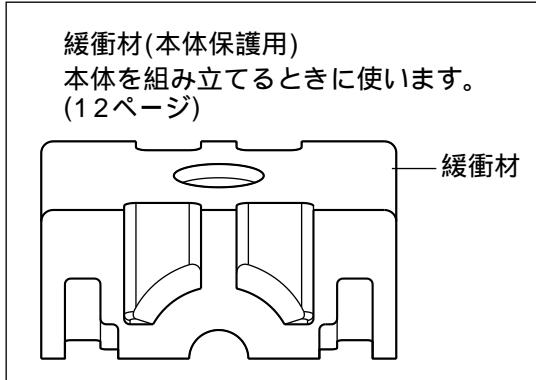
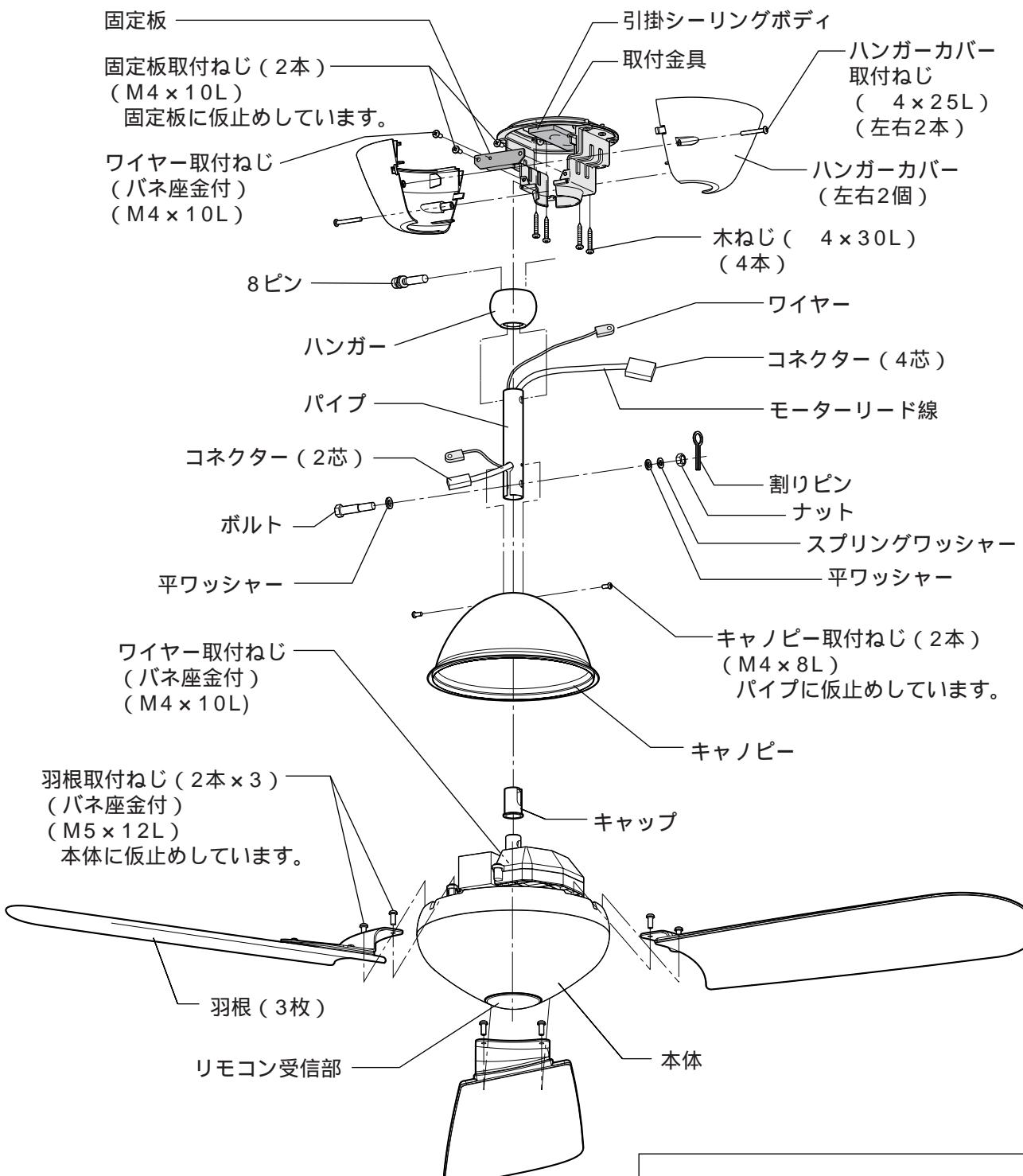
・熱気や温風のあたる場所

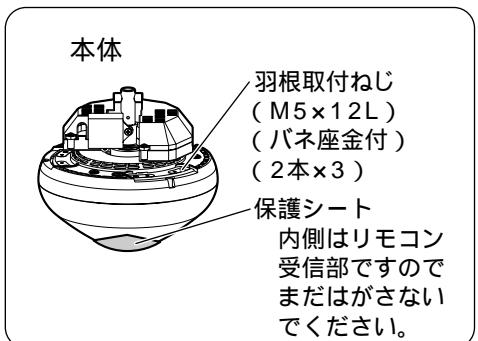


変色や故障の原因になります。

各部のなまえと付属品

展開図

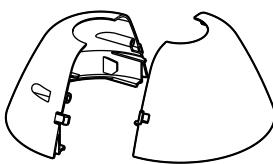




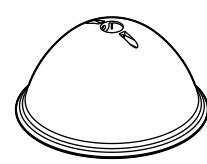
羽根(3枚)



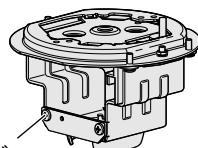
ハンガーカバー(左右2個)



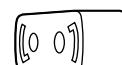
キャノピー(1個)



取付金具(1個)

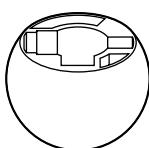


引掛シーリング
ボディ(1個)
(引掛シーリング
キャップ付)



固定板取付ねじ
(M4×10L)(2本)

ハンガー(1個)



キャップ(1個)



ナット(M8用)(1個)



ボルト(M8用)(1本)



平ワッシャー(M8用)(2個)



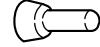
スプリングワッシャー(M8用)
(1個)



割りピン(1個)



コネクター(4個)



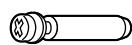
別販パイプ取付用

パイプ(1本)



キャノピー取付ねじ
(M4×8L)(2個)

8ピン(1個)



ワイヤー取付ねじ
(M4×10L)(バネ座金付)
(2本)



さら木ねじ(4×16L)
(2本)



リモコンホルダー取付用

木ねじ(4×30L)
(4本)



取付金具取付用

結束帯(1個)



別販パイプ取付用

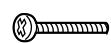
ワイヤー(1本)



モーターリード線(1本)



ハンガーカバー取付ねじ
(4×25L)(2本)



小ねじ(M4×20L)
(バネ座金付)(2本)



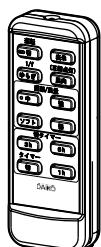
アウトレットボックス用
またはスイッチボックス用

中継リード線(1本)
(0.75mm²×2芯)

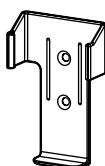


別販パイプ取付用

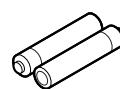
リモコン(1個)



リモコンホルダー(1個)



乾電池(単3形)(2個)



取り付けるまえに

1 リモコンの受信範囲を確認する

リモコンの準備をしてください

リモコンに乾電池を入れる

裏ぶたを開いて、

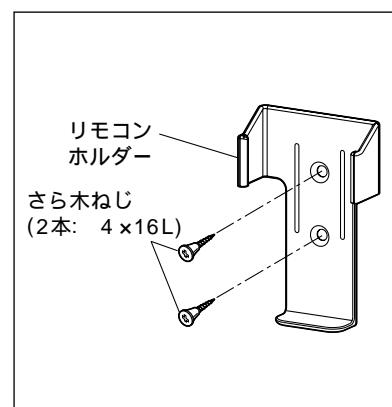
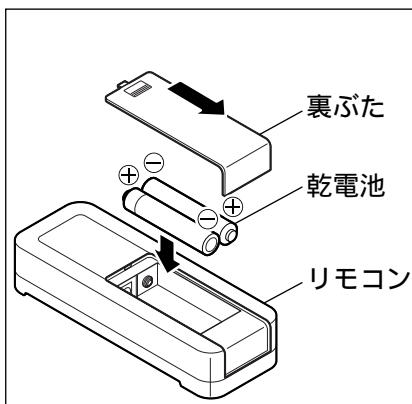
① ② を間違え

ないように入れて

ください。

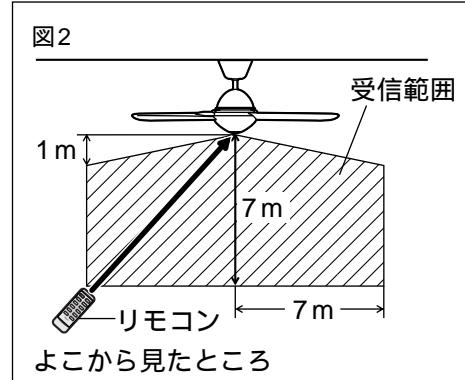
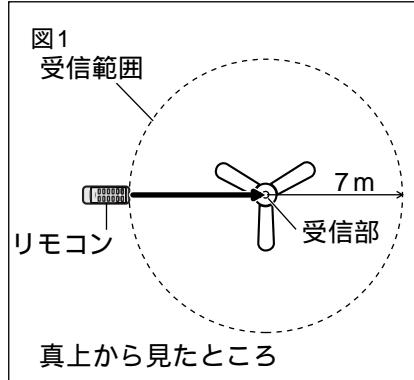
必ず新しい乾電池を
お使いください。

リモコンホルダーを
取り付ける



リモコンは受信部に向けて操作します。

本体下端の受信部は、図1、2のような範囲で受信します。

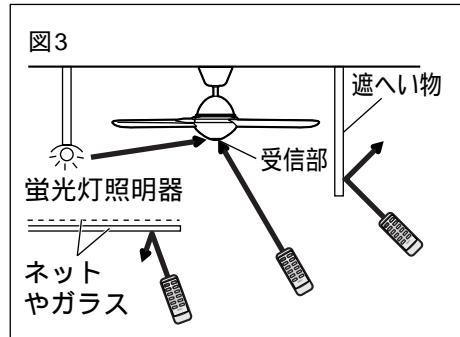


受信部はリモコン信号（赤外線）を直接受信しますので、
信号が遮断されたり、または蛍光灯照明機器などによって、
本体が受信できない場合があります。

受信部の近くにガラスや壁の遮へい物があり、送信の影になるところ

ネットやガラスなど、光を減衰、または反射するものがあるところ

受信部に蛍光灯照明器が直接当たっているところ



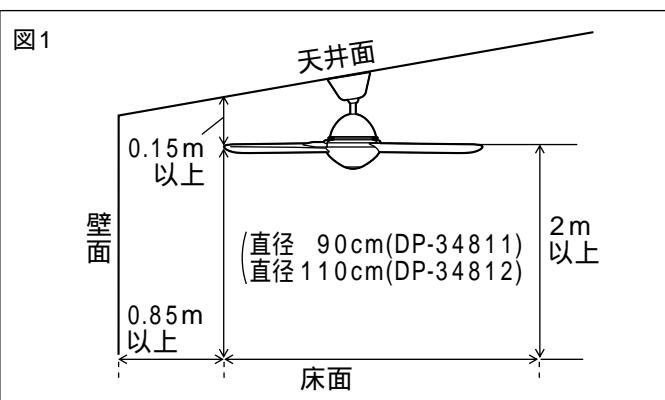
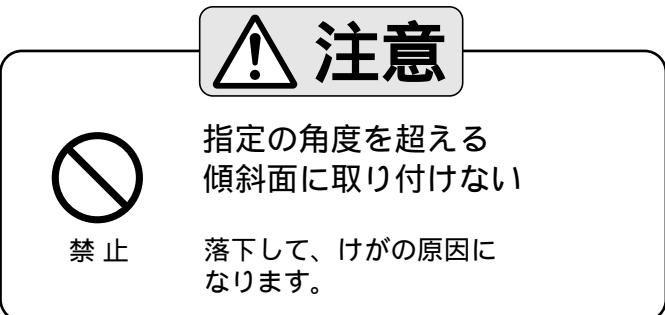
2 本体の取り付け場所を決める

前ページ手順1の“リモコンの受信範囲”を考慮して本体の取り付け場所を決めます。

羽根の回転にともない、強い回転力が加わりますので、取り付けは確実に行ってください。

本体の取り付けは、必ず、図1の寸法が確保できるところに取り付けてください。

本体とまわりの天井面や壁面との間がせまいと、空気の流れが乱れて性能が低下したり、本体がゆれたりします



別販パイプをお使い頂くと、天井の傾斜角度が32度のところまで取り付け可能です。(図2参照)

図4の度数対比表をご参照ください。

図2

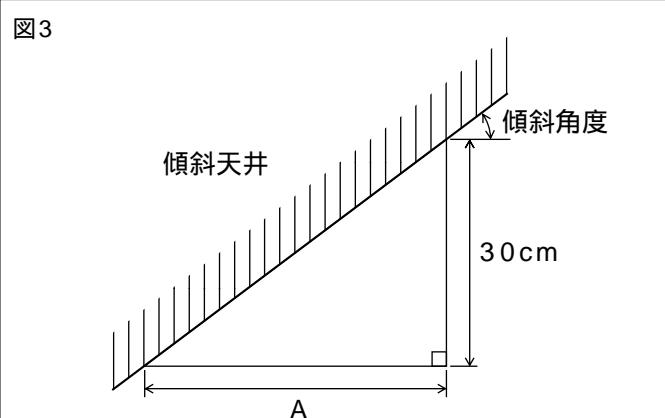
パイプ品番 本体品番	本体に付属のパイプ (123mm:本体と同梱しています。)	DP-33510 (600mm:別販品です)	DP-33511 (900mm:別販品です)
DP-34811	6度以内	32度以内	32度以内
DP-34812	5度以内	32度以内	32度以内

傾斜角度の割り出しかた

1. 天井扇を取り付ける位置から、おもりをつけた30cmの紐をぶら下げる
2. 図4のAの距離を測定し、図4の度数対比表より傾斜角度を割り出す

図4：度数対比表

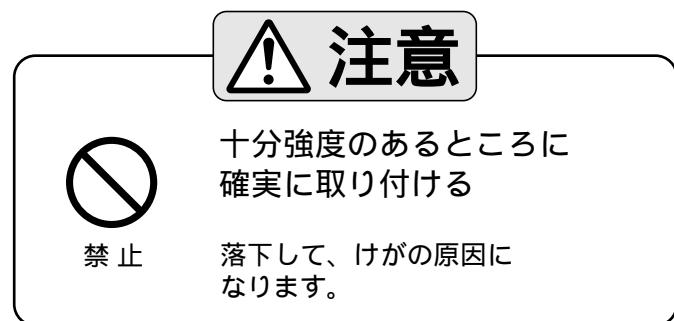
A	傾斜角度	参考(寸勾配)
262cm	6°	(1.14)
189cm	9°	(1.58)
139cm	12°	(2.15)
73cm	22°	(4.10)
47cm	32°	(6.38)



取り付けるまえに

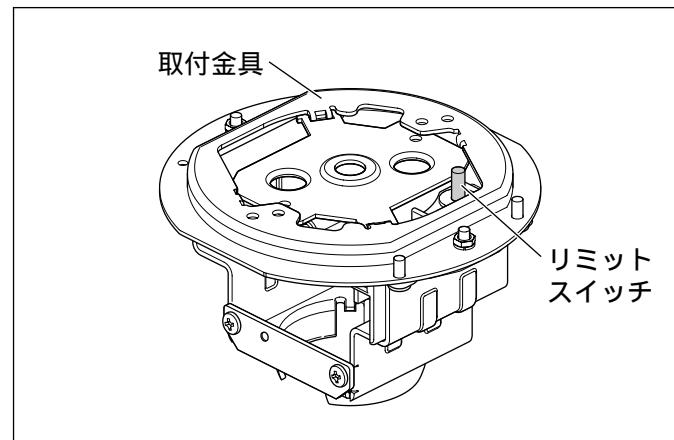
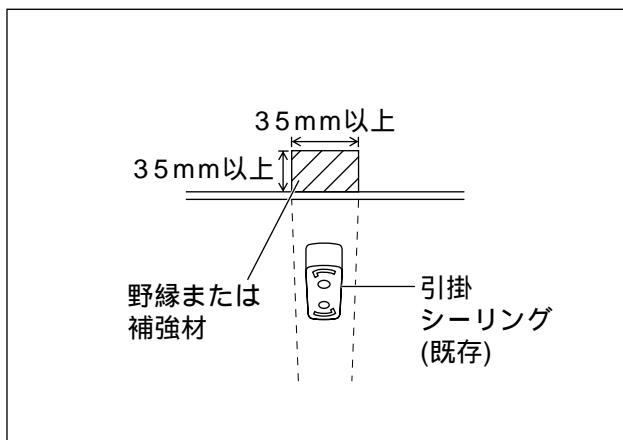
3 取付面の強度を確認し、弱い場所は補強する

取付面の強度を十分に確認し、あらかじめ補強するか、補強材の入っているところに取り付けます。



お願い

リミットスイッチが押し込まれる所へ取り付けてください。
(リミットスイッチが押されていないと、動作しません)



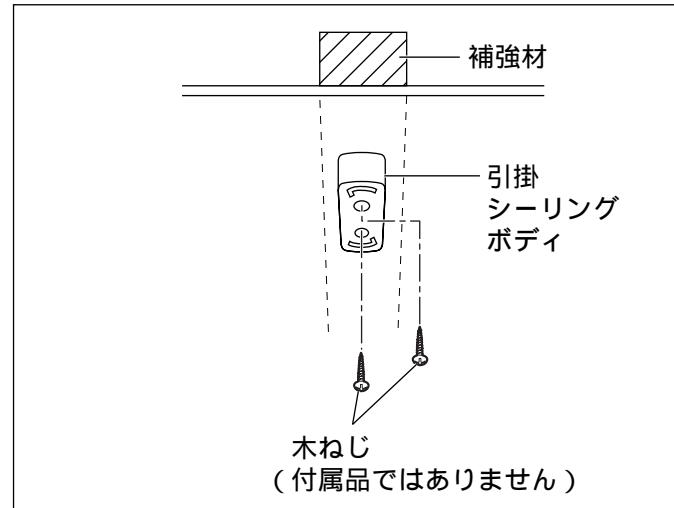
4 引掛シーリングが付いていない場合は、付属の引掛シーリングボディを取り付ける

電源線を差しこみ、穴の奥まで確実に差し込みます。

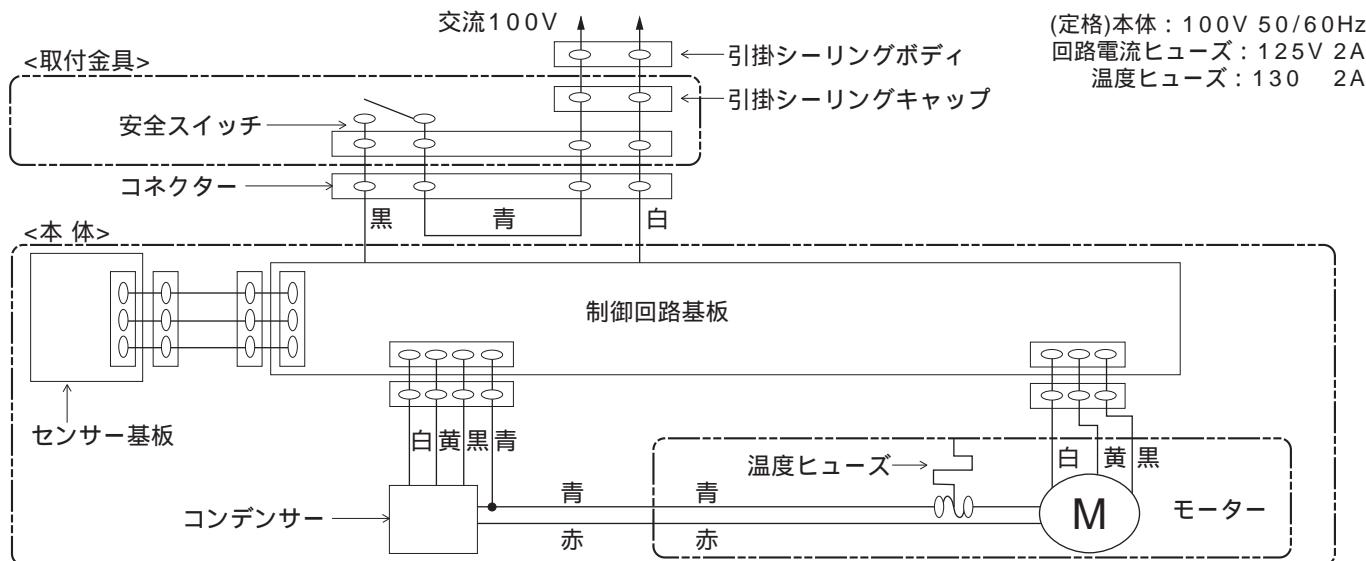
適合電線は単線の 1.6、2.0です。

引掛シーリングボディを木ねじ2本で、天井内の補強材のある位置に取り付けます。

(この木ねじは付属品ではありません)



結線図



本体を取り付ける

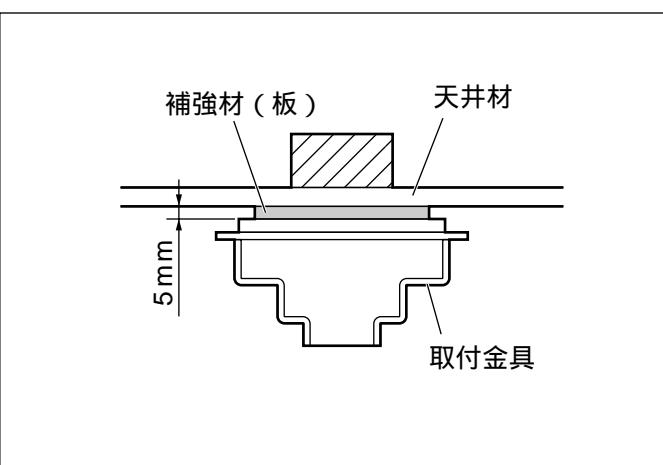
1 天井に取付金具を取り付ける

【取付金具の取り付けは、天井・引掛けシーリングの種類によって異なります。下記の内容に従って取り付けてください】

コンクリートの天井には取り付けできません。

やわらかい天井材（ジプトーンなど）に取り付ける場合は、天井材の下に補強材（板）を取り付けた後（右図）ボルトの取り付けをしてください。
(下記のC:ボルト取り付けの場合をご覧ください)

補強材（板）は5mm以上で、取付金具の回り止め用木ねじ（4×30L）が天井材を貫通できる厚さにしてください。



A : 角型、丸型引掛けシーリングが取り付いている場合



10ページ

B : 埋込形引掛けシーリングが取り付いている場合



11ページ

C : ボルト取り付けの場合



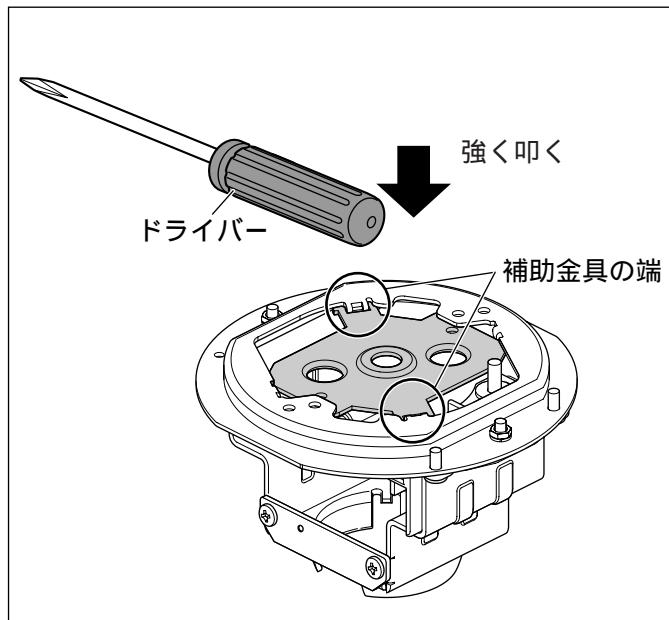
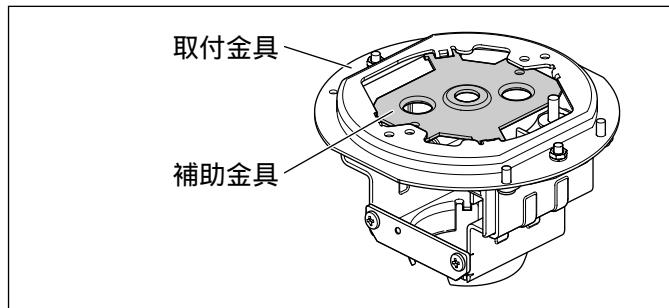
12ページ

本体を取り付ける

A : 角型、丸型引掛シーリングが取り付いている場合

補助金具をはずす

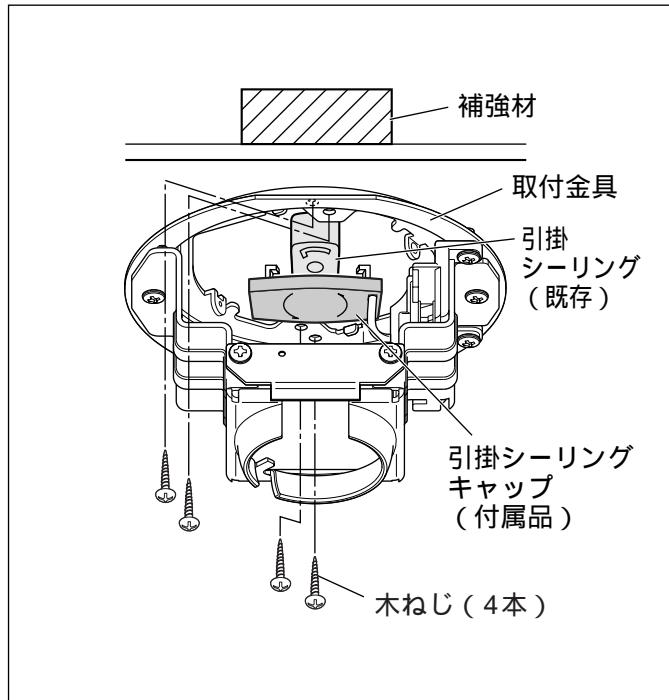
中央の補助金具の端（イラストの印：2カ所のうち片方）をドライバーで強く叩いてはずしてください。



付属の引掛シーリングボディから引掛シーリングキャップを取りはずす

天井に付いている引掛シーリングに、ではずした引掛シーリングキャップを取り付ける

取付金具を木ねじ（4×30L）4本で取り付ける



B：埋込形引掛シーリングが取り付いている場合

埋込形引掛シーリングのねじ（2本）をゆるめてはずす

埋込形引掛シーリングの金具のねじをゆるめてはずす

アウトレットボックス、またはスイッチボックスが取り付いているとき

補助金具をはずす（10ページ）

ねじ間隔が66.7mmの場合は外さないでください。

埋込形引掛シーリングの電源線を2本外す

はずした電源線2本を取付金具（または補助金具）に通して付属の引掛シーリングボディに接続する

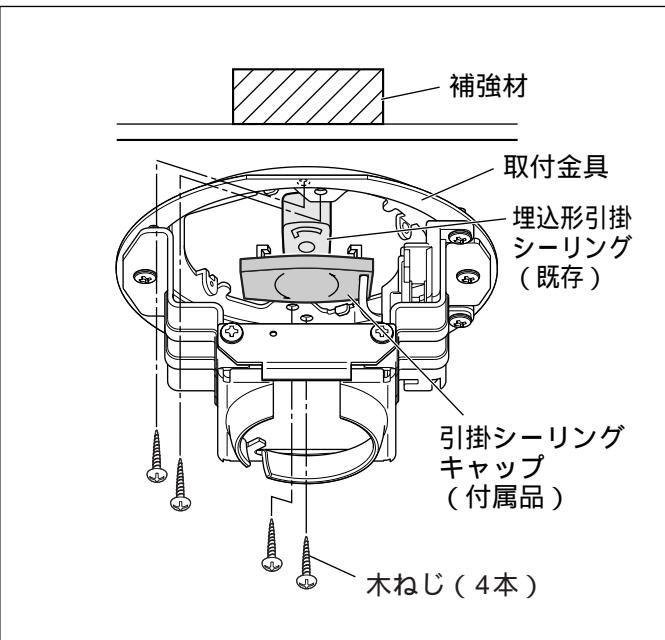
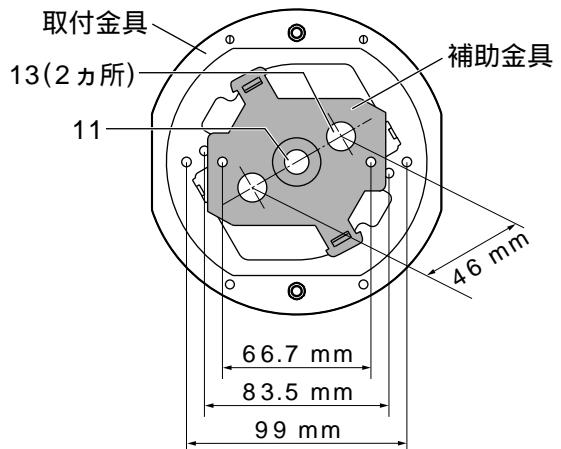
埋込形引掛シーリングに付属の引掛シーリングキャップを接続する

取付金具または補助金具を小ねじ（M4×20L）2本でアウトレットボックス、またはスイッチボックスに取り付ける

野縁など補強材が取り付いているとき

「アウトレットボックス、またはスイッチボックスが取り付いている場合」の手順～と同じです。

取付金具を木ねじ（4×30L）4本で取り付ける



本体を取り付ける

C : ボルト取り付けの場合

電源線2本を補助金具に通して付属の引掛シーリングボディに接続する

引掛けシーリングキャップを取り付けたまま接続してください。

補助金具の中央の穴にボルトを通す

取付ボルト、ナットは付属していません。

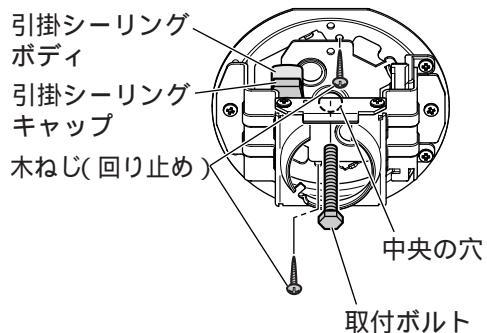
取付金具が回転しないように木ねじ(4×30L)2本で固定する

注意



回り止めの木ねじを確実に締めつける

落下して、けがの原因になります。



下記の点を確認して、次の作業に進んでください。

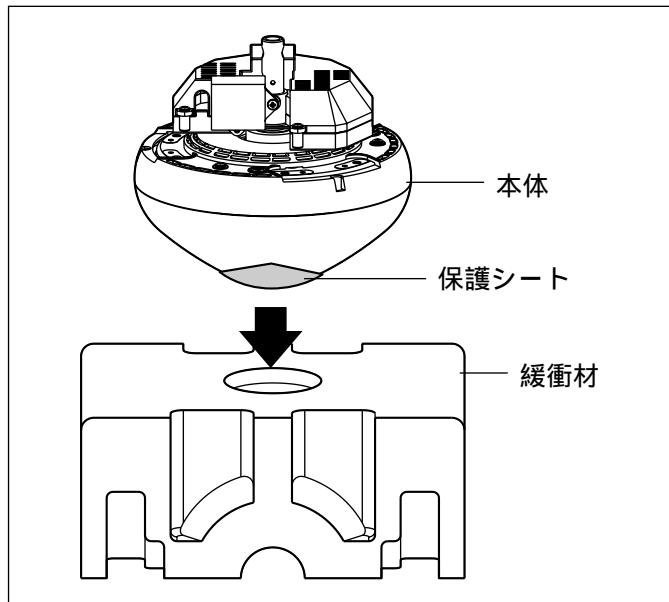
確認

チェック ねじはしっかりと締め付けられていること

2 本体の下(受信部)に緩衝材を敷く

受信部(保護シートではってあるところ)
保護のためです。必ず梱包ケースの中
にある、緩衝材を本体下に敷いてください。

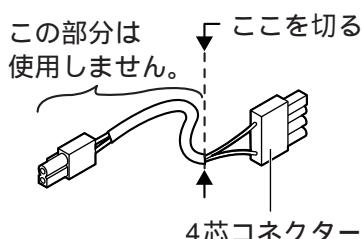
本体下の保護シートは、まだはがさないでください。



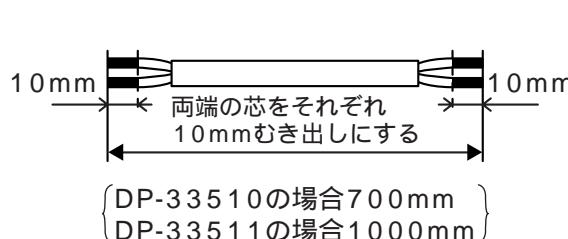
3 パイプに、ワイヤーとモーターリード線を通す

別販パイプを使用する場合

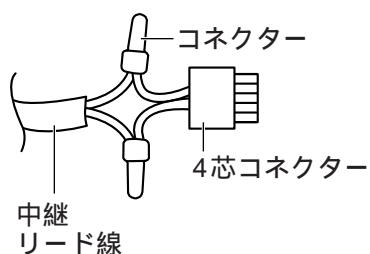
モーターリード線の
4芯コネクター側を切る。



付属の中継リード線(1000mm :
0.75mm² × 2芯)を下図のように
加工する。



の4芯コネクターと、
の中継リード線を付属の
コネクターで結線する。

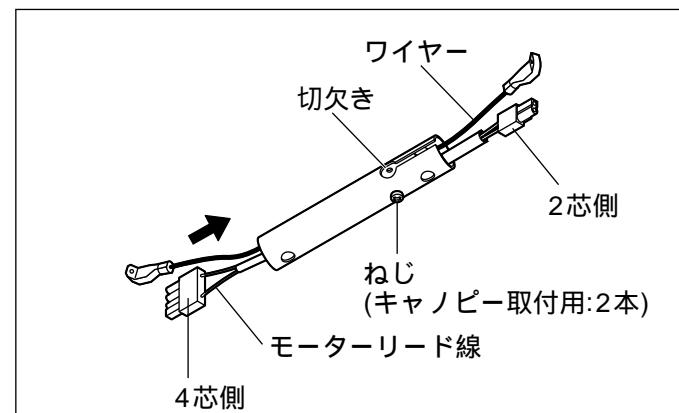


パイプに仮止めしているねじ(2本)をゆる
める(ワイヤーとモーターリード線を通すため)

パイプにワイヤーとモーターリード線を
差し込む

パイプの切欠きに2芯コネクターが出る
ように差し込んでください。

必ず2芯コネクターの方をパイプに差し
込んでください。



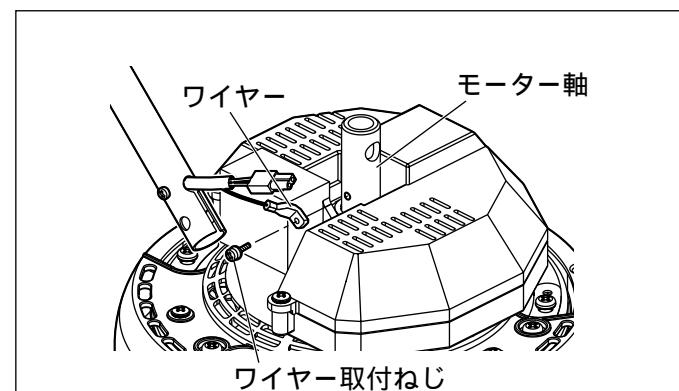
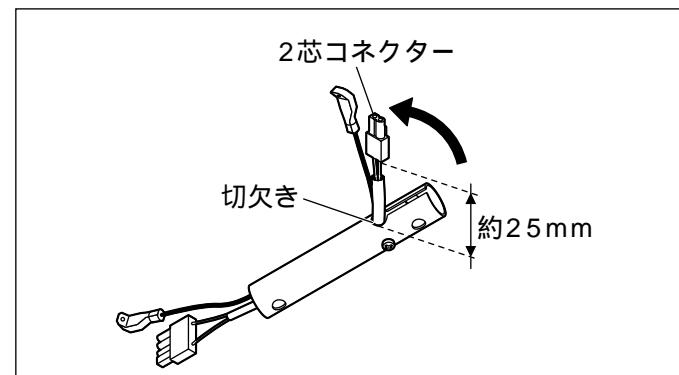
注意

ワイヤーは必ず取り付ける

落下して、けがの原因に
なります。

パイプの切欠きにワイヤーと2芯コネ
クターを引っ掛ける
(2芯コネクターの出しろは約25mmにして
ください)

本体のモーター軸に、切欠きに引っ掛け
た方のワイヤーを取り付ける



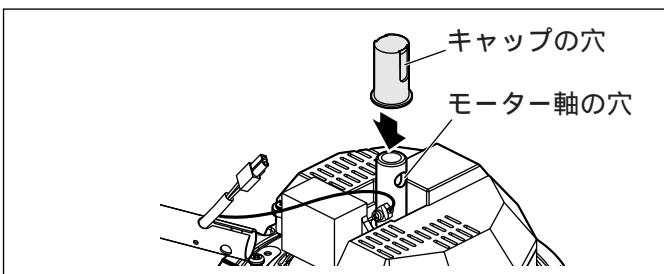
本体を取り付ける

4 本体にパイプを取り付ける

モーター軸にキャップをはめる

モーター軸とキャップの穴の向きを合わせてください。

取り付け忘れると本体が揺れます



モーター軸にパイプを差し込み、
上からワイヤーを引っ張る

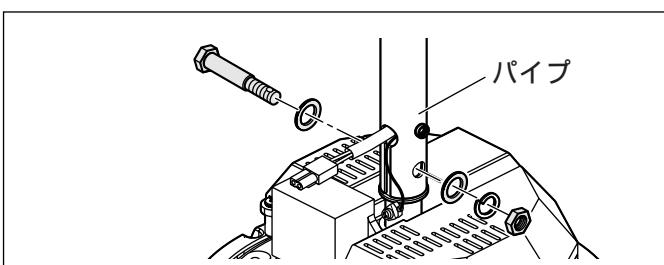
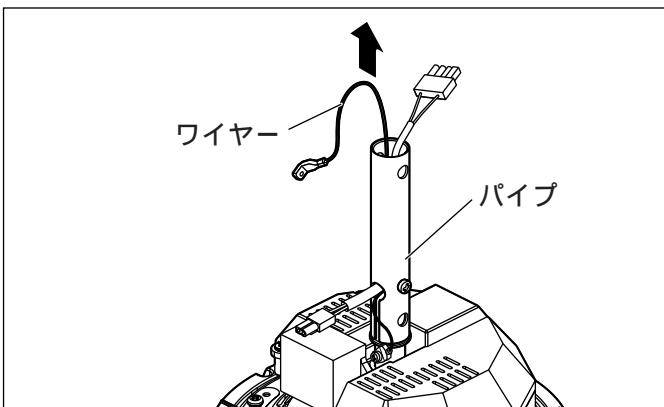
パイプを付属のボルト、ナット、ワッシャーでしっかりと固定する



ナットはトルク500N・cm(約51kgf・cm)以上で締めつける

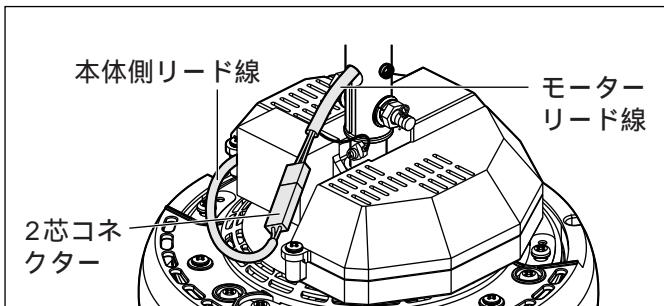
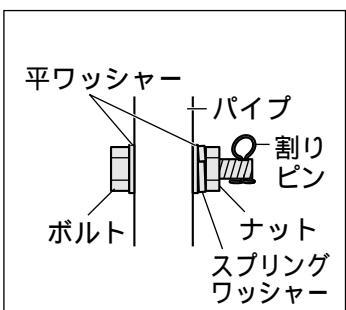


落下して、けがの原因になります。

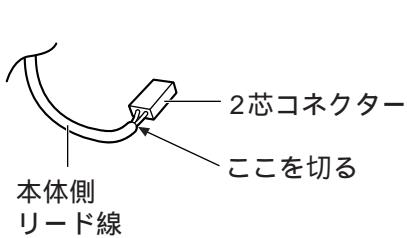


ボルトの先に割り
ピンを差し込み、
先を折り曲げる

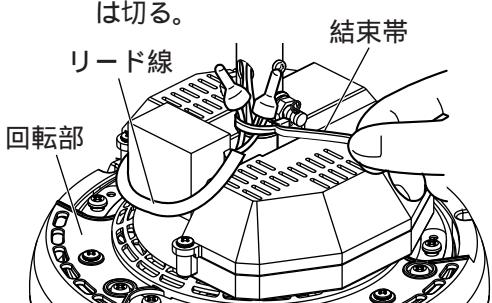
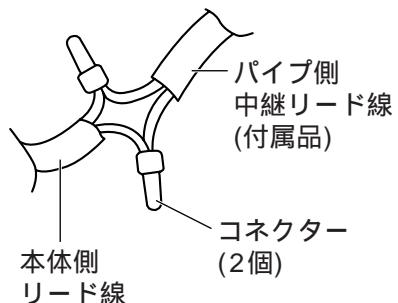
モーターリード線
の2芯コネクター
を本体側リード線
の2芯コネクター
に接続する



本体側リード線の
2芯コネクターを
切る



本体側リード線の芯を
10mmむき出し、付属
のコネクターで結線する



5 本体に羽根を取り付ける

!**注意**



禁止

羽根取付ねじは、電動工具で
締めつけない

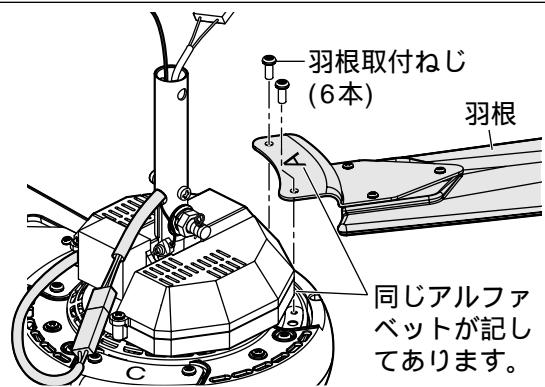
下穴のねじ山がつぶれて羽根が
落下し、けがの原因になります。

本体に仮止めしている羽根取付ねじ
(M5×12L:バネ座金付) 6本を使います。

それぞれ2本ずつ使います。

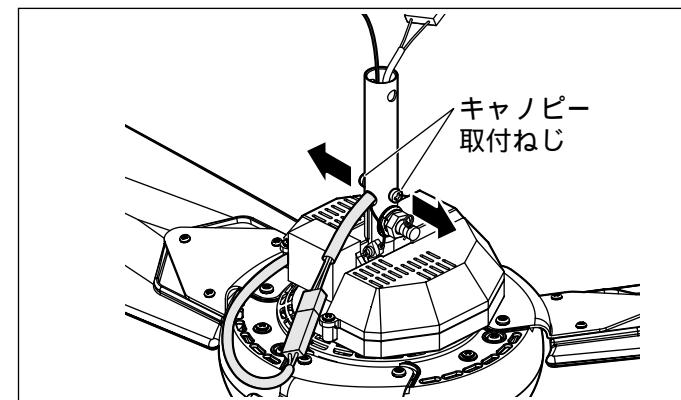
羽根の根元にそれぞれ、A,B,C の記号が
ありますので、本体のA,B,C の記号の
位置に合わせて取り付けてください。

記号を合わせずに羽根を取り付けると、
振れの原因になります。

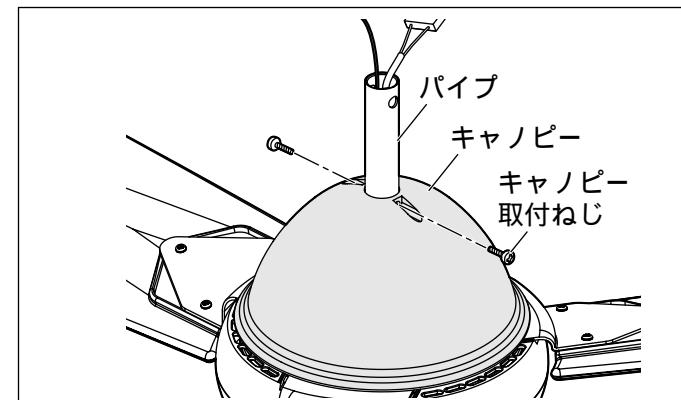


6 キャノピーを取り付ける

パイプに仮止めしているキャノピー取付
ねじ (M4×8L) 2本をはずす



キャノピーをかぶせて、はずしたキャノ
ピー取付ねじ (2本) で固定する



本体を取り付ける

下記の点を確認して、次の作業に進んでください。

チェック

羽根と本体の記号を合わせること

確認

キャノピーは必ず取付ねじで固定すること

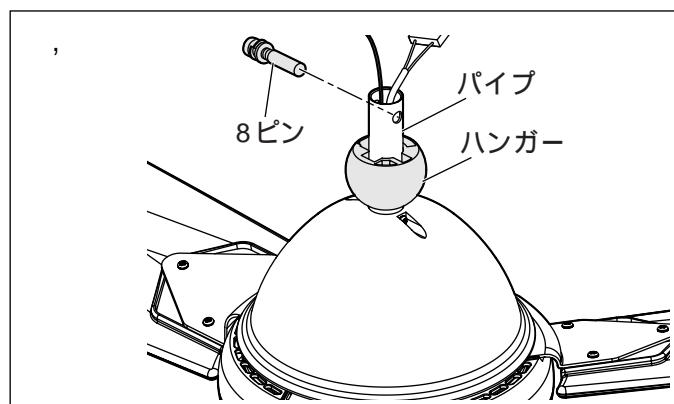
□

□

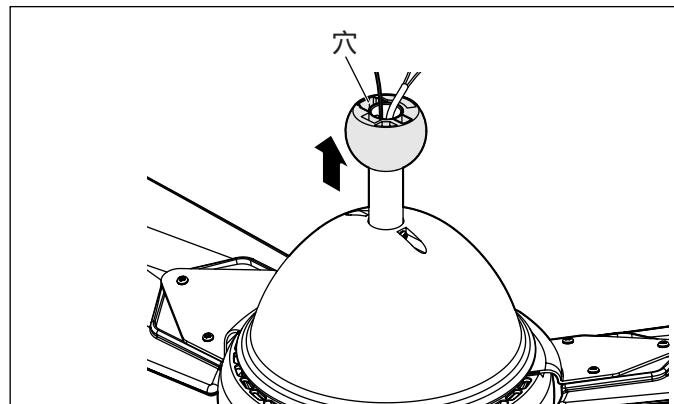
7 本体にハンガーを取り付ける

パイプにハンガーを差し込む

8ピンをパイプに取り付ける

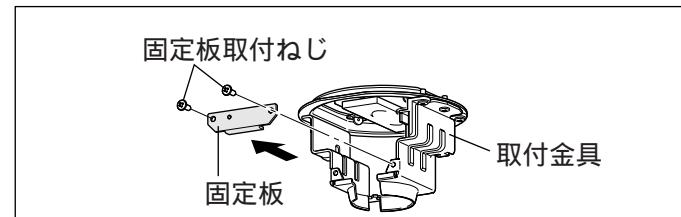


ハンガーを引き上げて、穴に 8ピンを
はめ込む

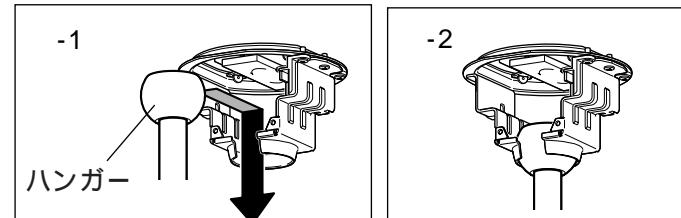


8 本体をつるす

固定板取付ねじ（2本）をはずして、取付金具から固定板をはずす

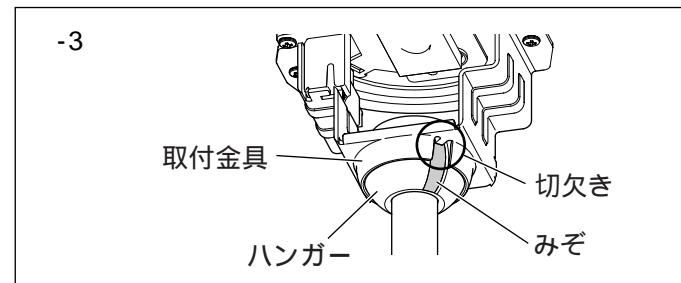


取付金具にハンガーを取り付ける



ハンガーのみぞは、必ず取付金具の切欠きに合わせてください。

みぞが切欠きに合わさっていない場合は、揺れ、異常音の原因になります



固定板を再び取付金具に取り付け、ワイヤーをワイヤー取付ねじ（M4×10L）でしっかりと固定する

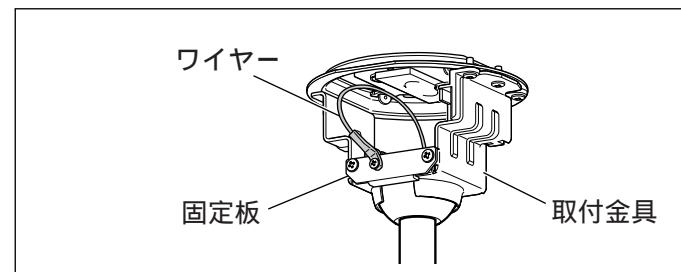


注意

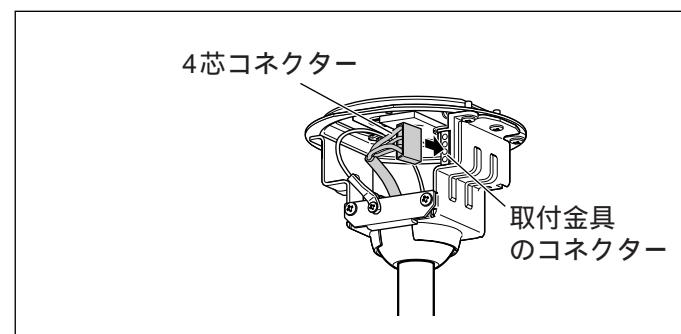
ワイヤーは必ず取り付ける



落下して、けがの原因になります。



4芯コネクターを取付金具のコネクターに接続する



「本体をつるす」作業は終わりです。下記の点を確認して、次の作業に進んでください。

確認

- | | | | |
|------|---------------------------|-------|--------------------------|
| チェック | 固定板は必ず取り付けること | | <input type="checkbox"/> |
| | ワイヤーは必ず取り付けること | | <input type="checkbox"/> |
| | ハンガーのみぞは必ず取付金具の切欠きに合わせること | | <input type="checkbox"/> |
| | 4芯コネクターを取付金具のコネクターに接続すること | | <input type="checkbox"/> |

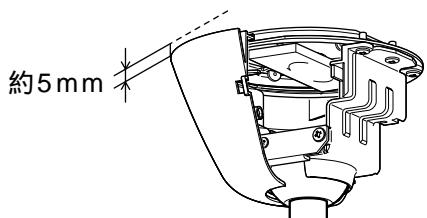
本体を取り付ける

9 ハンガーカバーを取り付ける

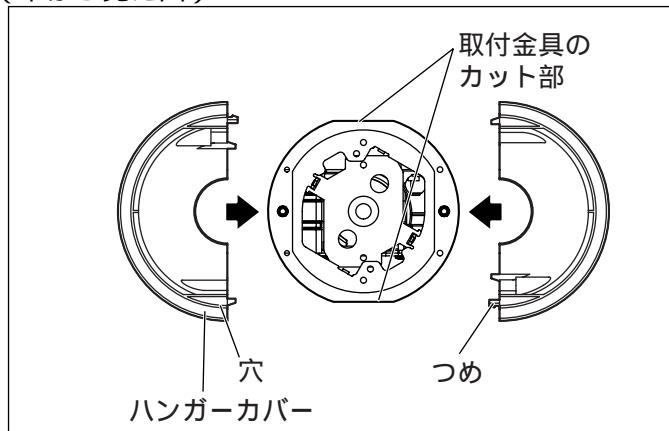
取付金具のカット部にそって、ハンガーカバーを両側からはさみ込む

つめと穴がはまり合います。

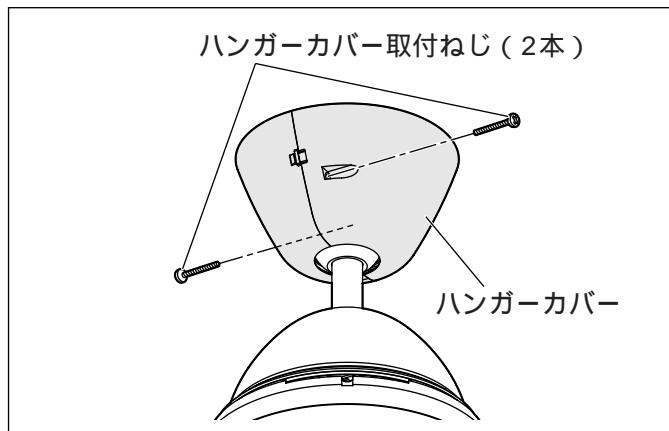
天井とのすき間は約5mmあきます。



(下から見た図)

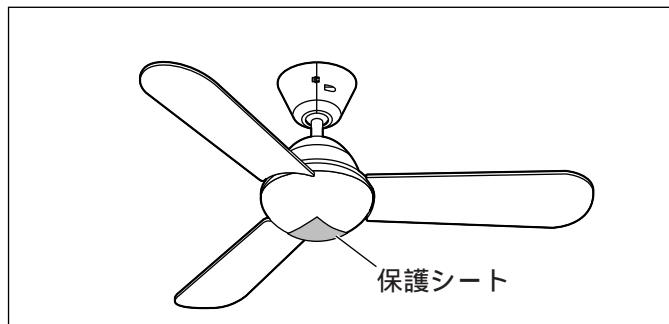


ハンガーカバーのねじ穴（2ヵ所）を、
ハンガーカバー取付ねじ（ $4 \times 25L$ ）
2本でしっかりと固定する



10 保護シートをはずす

受信部の保護シートをはずしてください。



取り付け後の点検

<取り付け後は、必ず、下記の点検・確認をしてください>

確認

取付金具と天井面の取り付けにガタはないか

ガタがあるとき

取付金具を取り付けるナットがしっかりと締めつけられているか

取付金具の回り止めの木ねじは、しっかりと締めつけられているか

確認

電源電圧は100Vか

始動して数分後にモーターとパイプに、

確認

横揺れや振動がないか

横揺れ、振動があるとき

羽根取付ねじや吊り下げ部のねじがしっかりと締めつけられているか

羽根が変形していないか

ハンガーのみぞの位置が取付金具の切欠きと合っているか

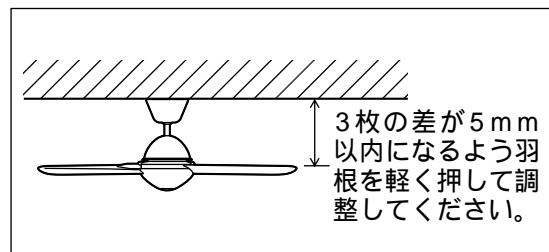
羽根と本体の記号が合っているか

直らないとき

羽根先端の高さをそろえる

3枚の高さの差が5mm以内になるように、羽根を軽く押して調整してください。

取り付けが確実であっても、羽根の回転により、横揺れ(2~3mm)が残る場合がありますが、故障ではありません。



確認

リモコン操作と本体の動作は正常か

取扱説明書の「運転のしかた」を参照し、各動作確認をする

仕様

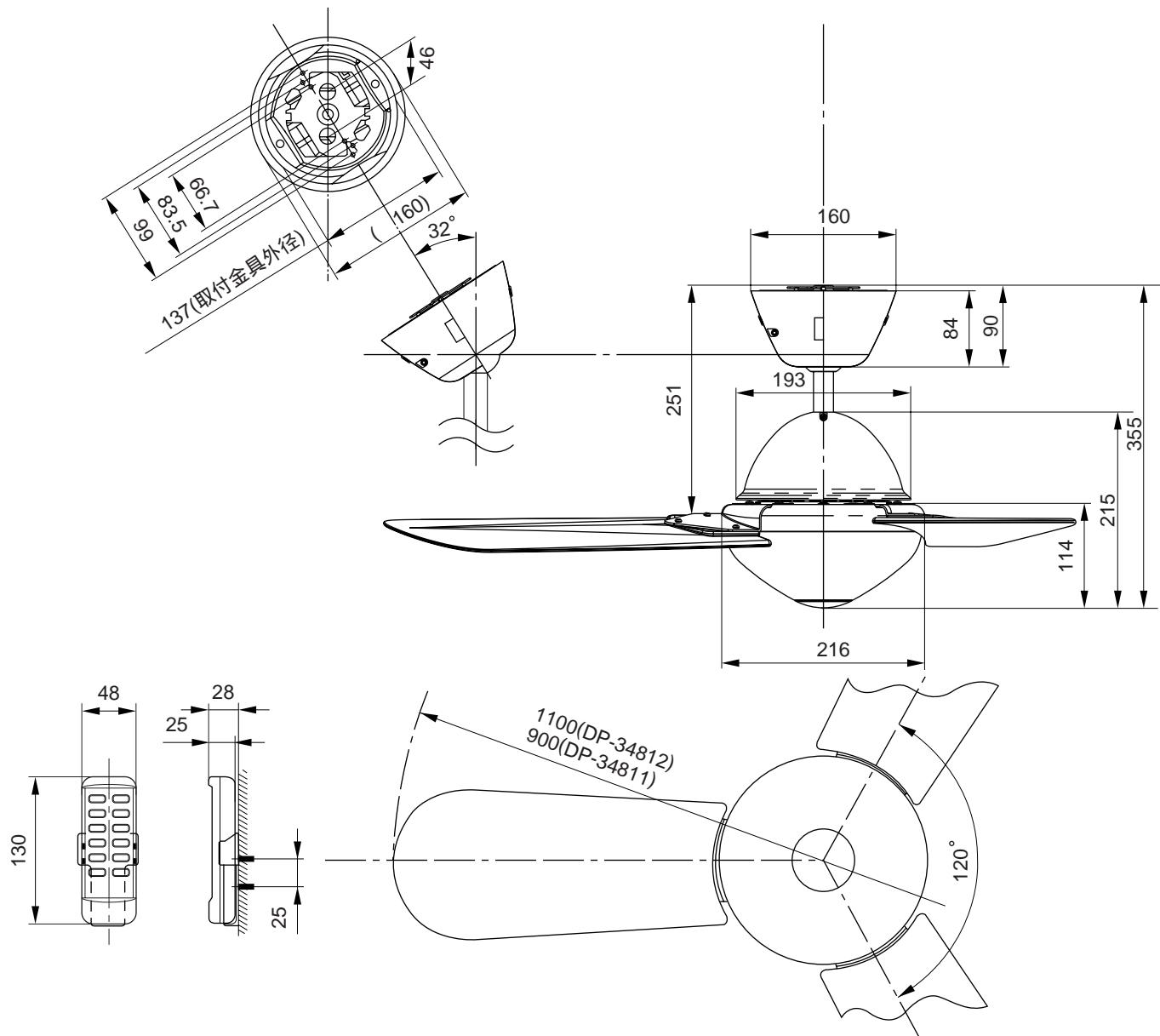
消費電力、風速、風量は「1/fゆらぎ：切」「風量：強」のときの標準値です。

品番	電圧(V)	回転	周波数(Hz)	消費電力(W)	回転数(r/min)	風速(m/min)	風量(m³/min)	本体質量(kg)
DP-34811	100	正回転	50	20	245	143	99	5.2
			60	27	267	150	105	
	100	逆回転	50	20	293	—	—	5.5
			60	29	320	—	—	
DP-34812	100	正回転	50	45	243	173	164	5.5
			60	60	260	173	183	
	100	逆回転	50	45	255	—	—	5.5
			60	60	279	—	—	

リモコンで運転「切」のときの消費電力は約1Wです。

本体質量は、取付金具とリモコンを除いた質量です。

外形寸法



別販パイプ使用時の天井面からの長さ

パイプ品番	DP-33510 (600mm)	DP-33511 (900mm)
長さ	832mm	1132mm